

(様式4)

## ◆ (氏名) 市川 昭彦

### <所属・職名>

大泉町立北小学校 教諭

### <略歴>

昭和58年より、群馬県で小学校教員となる

昭和62年より、群馬県大泉町での教員として32年間勤務

その間、学級担任・日本語学級担任等として外国人児童の教育に携わり現在に至る。

### <これまでの研究活動、外国人児童生徒等教育に関する経験など>

平成10・11 文部省 外国人子女教育研究協力校 研修主任

研修テーマ「外国人児童と共に学び生き生きと取り組める算数科の指導の工夫」

平成13・14 文部科学省 JSLカリキュラム開発メンバー

以降 ○独立行政法人教員研修センター主催

外国人児童生徒に対する日本語指導 指導者養成研修 講師

○東京学芸大学国際教育センターJSL研修 講師

○北九州市・三重県・静岡県・福島県等のJSL研修会 講師

現在 公益財団法人 海外子女教育振興財団 AG5プロジェクト研究員

### <対応可能学校種>

小学校

<遠隔での指導助言> ※いずれかの□にチェックを記入してください。

対応可

対応不可

ZOOMミーティングの設定をしていただければ可能です。

<その他(国等の委員歴等)>

### <関連URL>

### <講師として担当可能な内容>

別紙「講師として担当可能な内容(モデルプログラム「養成・研修の内容構成」対応)」のA～Nの書く欄に、◎または○を付けてください。

※別紙に○を付けていただいた内容は、一覧表に整理して文部科学省ホームページに掲載いたします。

※ 本様式は文部科学省ホームページに掲載いたします。

担当可能 (◎以外) ○は黄色マーカーで示しております。

講師として担当可能な内容 (モデルプログラム「養成・研修の内容構成」対応)

内容	○大項目 ・小項目 ※項目の一部は複数の内容で取り扱う	担当可能◎ 基礎的内容 は可能○
A 外国人 児童生徒等 教育の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グローバル化と外国人児童生徒等</li> <li>・多文化化する学校 ・複言語主義 ・多文化主義 ・言語的マイノリティ</li> <li>○文化間移動とライフコース</li> <li>・成長・発達の視点 ・社会参加と自己実現 ・アイデンティティ</li> <li>○多文化共生教育</li> <li>・異文化間能力 ・ダイバーシティ ・市民性</li> <li>○公教育の役割</li> <li>・社会的正義、公正性 ・学習権・言語権 ・教育コミュニティ</li> <li>○日本語教育の位置付け</li> </ul>	
B 外国人 児童生徒 等教育の 背景・現 状・施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国人児童生徒等の現状と背景</li> <li>・「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」</li> <li>・在留外国人統計 ・在留資格 ・児童生徒の出身地の教育制度</li> <li>・来日の社会的歴史的背景(国際結婚、難民、中国帰国者、日系移民、在日コリアン)</li> <li>○外国人児童生徒等教育施策</li> <li>・「特別の教育課程」としての日本語指導</li> <li>・文部科学省開発のカリキュラム、教材、評価ツール</li> <li>・就学義務と学習権 (不就学、義務教育年齢超過)</li> <li>・学校制度と入試 (高校入試、定時制高校、夜間中学、進学・退学率)</li> <li>○地域の特性</li> <li>・当該自治体の多文化化状況 (集住/散在) ・エスニック・コミュニティ</li> <li>・外国人支援の状況</li> </ul>	○
C 学校の 受け入れ 体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自治体の受け入れの流れ</li> <li>○自治体 (教育委員会) の指導体制</li> <li>・日本語学級の設置</li> <li>・拠点校 (センター校) ・巡回指導 ・通級</li> <li>・初期集中日本語指導教室 (プレクラス)</li> <li>・就学前準備教育教室 (プレスクール)</li> <li>・日本語指導員・母語相談員の派遣</li> <li>○校内の指導体制</li> <li>・校務分掌 (外国人児童生徒等教育担当、日本語指導担当)</li> <li>・スクール・カウンセラー、ソーシャルワーカーとの連携</li> <li>・教員の加配 ・派遣日本語指導員、母語相談員</li> <li>・ボランティアの日本語支援者、学習支援者、母語支援者</li> <li>・取り出し指導 (抽出指導) / 入り込み指導</li> <li>・「特別の教育課程」と個別の指導計画 ・評価と成績</li> <li>○教員・支援員間の連携</li> <li>・校内教職員・支援員の連携 ・他校との連携 ・保幼小中高間連携</li> </ul>	○
D 文化適 応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国人児童生徒等の文化</li> <li>・宗教 ・習慣 ・学校文化 (「隠れたカリキュラム」) ・非言語行動</li> <li>○文化接触</li> <li>・自文化中心主義/文化相対主義 ・文化本質主義/文化構築主義</li> <li>・ステレオタイプ、偏見、差別 ・対話 ・異文化の受容 ・自己肯定感</li> <li>○子どもの文化適応</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化適応のプロセス</li> <li>・心的文化変容 (同化、分離、統合、境界化)</li> <li>・情意面、行動面、認知面の違い</li> </ul>	
E 母語・母文化・アイデンティティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○母語と第二言語                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイリンガリズム</li> <li>・二つの言語の関係 (二言語相互依存仮説)</li> <li>・言語環境</li> <li>・言語の使い分け</li> </ul> </li> <li>○アイデンティティ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデンティティの動態性・多面性</li> <li>・母語・母文化とアイデンティティ</li> </ul> </li> <li>○母語／継承語教育                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族とのコミュニケーション</li> <li>・認知面の支えとしての母語</li> <li>・母語保持・伸長の支援</li> </ul> </li> </ul>	
F 言語と認知の発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの言語発達                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・一次的ことばと二次的ことば</li> <li>・萌芽的リテラシー</li> <li>・ことばと思考</li> <li>・第二言語習得のプロセス (沈黙期、チャンク等)</li> <li>・言語発達と発達障害、学習障害</li> </ul> </li> <li>○言語能力の捉え方                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力</li> <li>・言語の四技能</li> <li>・生活言語能力と学習言語能力</li> </ul> </li> <li>○言語能力の測定法                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語テストの目的、実施方法、結果の活用</li> <li>・言語能力測定ツール (文部科学省「JSL 児童生徒のための対話型アセスメント (DLA)」)</li> </ul> </li> </ul>	○
G 日本語の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語としての日本語                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・音韻、文字・表記、語彙、文法</li> <li>・学校文法との違い</li> <li>・諸言語との対照</li> </ul> </li> <li>○文章・談話                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャンルと文体</li> <li>・ことばの機能</li> <li>・表現の意図</li> <li>・結束性</li> </ul> </li> <li>○場面とことば                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語使用域</li> <li>・敬語</li> <li>・話しことばと書きことば</li> <li>・共通語と方言</li> <li>・ことばの性差</li> </ul> </li> </ul>	
H 子どもの日本語教育の理論と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本語指導の内容 (シラバス)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・構造 (文型)、場面、トピック、機能 等</li> </ul> </li> <li>○言語教育の考え方と方法                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーディオリンガル・アプローチとコミュニカティブ・アプローチ</li> <li>・内容 (教科等) と言語 (日本語) の統合学習 (文部科学省「JSL カリキュラム」)</li> <li>・認知プロセスにもとづく読み・書きの指導</li> </ul> </li> <li>○学習活動                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・文型練習 (パターン・プラクティス等)</li> <li>・意味を重視した活動 (タスク、ロールプレイ、プロジェクトワーク等)</li> </ul> </li> <li>○教材・教具 (リソース) の利用と作成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の分析</li> <li>・教材の作成 (補助教材・ワークシート・リライト教材等)</li> <li>・メディアの活用</li> <li>・知的財産権・著作権</li> </ul> </li> <li>○教科の指導                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」</li> <li>・教科教育法</li> <li>・授業のことば</li> <li>・教科のことば</li> <li>・学習参加のための支援</li> </ul> </li> </ul>	○
I 日本語指導の計画と実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本語のコース設計の手順                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握 (学習歴、出身国の教育内容、日本語の力、教科の力、学習環境)</li> <li>・目標設定と指導内容の決定</li> <li>・指導方法と評価方法の決定</li> </ul> </li> <li>○日本語プログラム                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・サバイバル、日本語基礎、技能別日本語、内容と日本語の統合学習「JSL カリキュラム」)、教科の補習</li> <li>・キャリア教育、人権教育、国際理解教育等とのクロスカリキュラム</li> </ul> </li> <li>○指導計画の作成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画の作成</li> <li>・対象児童生徒と指導期間の決定</li> <li>・目標と評価</li> <li>・日本語プログラムの組み合わせ</li> <li>・「特別の教育課程」としての日本語指導</li> </ul> </li> </ul>	◎

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○模擬授業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導の学習指導案の作成</li> <li>・模擬授業の実施</li> <li>・振り返り</li> </ul> </li> </ul>	
J 在籍学級での学習支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習参加のための支援                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>スキューパールディング</b> (足場かけ 例: 「JSL カリキュラム中学校編」日本語支援の5つの視点)</li> <li>・<b>フォーカス・オン・フォーム</b></li> </ul> </li> <li>○学習環境づくり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内、教室内の掲示</li> <li>・教材の言語面への配慮 (教材、教具、試験問題)</li> <li>・周囲の児童生徒との相互学習</li> <li>・周囲の児童生徒による支援</li> </ul> </li> <li>○日本語学習と他教科の内容・活動との関連付け (カリキュラム・マネジメント)</li> </ul>	○
K 社会参加とキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア教育                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己実現</li> <li>・ロールモデル</li> <li>・進路指導 (進学・就職/多言語進路ガイダンス)</li> <li>・外国人生徒等対象の特別入試、特別措置</li> <li>・就労と在留資格</li> </ul> </li> <li>○社会参加とことばの力                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報リテラシー</li> <li>・社会参画</li> <li>・市民性教育</li> </ul> </li> </ul>	
L 保護者・地域とのネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者の教育参加の促進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語力への配慮 (通訳・翻訳、やさしい日本語)</li> <li>・教育制度・学校文化理解の促進 (学校行事、就学・進路関係資料、学校のお知らせ)</li> <li>・就学ガイダンス、外国人保護者懇談会等の実施</li> <li>・保護者の社会的状況への配慮 (外国人の雇用状況とその背景等)</li> </ul> </li> <li>○多文化家族                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語・文化の違いによる断絶</li> <li>・サード・カルチャー・キッズ</li> </ul> </li> <li>○地域、専門家との連携・協力                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の外国人支援の状況</li> <li>・エスニック・コミュニティ</li> <li>・居場所づくり</li> <li>・国際交流協会、NPO 団体等との連携</li> <li>・福祉・医療等関連機関との連携</li> <li>・大学等教育研究機関との連携</li> </ul> </li> </ul>	
M 現場における実践 (実地教育・研修)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現場での実践 (観察、交流、支援、授業の実施)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児童生徒の多様性 (言語文化・年齢・家族背景・滞日歴・学習歴他) の理解</li> <li>・指導体制・指導条件の多様性の理解</li> <li>・条件に応じた指導計画の作成</li> <li>・状況に応じた支援の工夫</li> <li>・関係者との連携・協働</li> </ul> </li> <li>○実施記録の作成と振り返り                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場の状況</li> <li>・実施内容</li> <li>・授業・活動時の児童生徒の参加状況</li> <li>・担当教員・関係者から得た情報</li> </ul> </li> <li>○実施した授業の振り返り                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した指導計画について</li> <li>・当初の子ども観・教材観・指導観等</li> <li>・児童生徒の学び</li> <li>・授業時の支援・対応について</li> </ul> </li> <li>○現場での実践における倫理</li> </ul>	◎
N 成長する教師 (教員・支援員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○省察的実践家                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の変容</li> <li>・自己研修</li> <li>・実践の共有</li> </ul> </li> <li>○外国人児童生徒等教育の専門性の向上                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教育に関わる専門性</li> <li>・外国人児童生徒等教育に関わる専門性</li> <li>・他の領域の専門家との協働</li> </ul> </li> <li>○教師 (教員・支援員) としての成長                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のキャリアにおける外国人児童生徒等教育経験の意味</li> <li>・リーダーとしての役割</li> <li>・新しい価値の創造</li> <li>・社会への働きかけ</li> </ul> </li> </ul>	○

文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」(公益社団法人日本語教育学会)